

## 第二研究会のお知らせ

# 腸内フローラの機能と利用法

伊藤 喜久治 先生

日本エスエルシー（株）、ピビオフジグループ

日時 平成25年1月28日（月）

15:00～17:00

場所 日本生物科学研究所 管理棟 会議室2・3

### 要旨

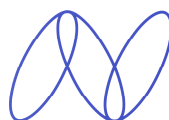
腸内フローラの研究は1681年オランダのLeevenhoekが手作りの顕微鏡で糞便中の細菌を観察したことに始まる。研究の方向性はどのような菌がどこにいるのかと言う生態学的研究と、宿主にとって何をしているかと言う機能的研究に分けられる。

腸内フローラはその99%が嫌気性菌で占められ、培養するための技術開発が進み多くのstrict anaerobesが培養されるようになってきた。近年、遺伝子（16S rRNA）の塩基配列を基とした分子生物学的分類法が確立し、PCR法、FISH法、さらにメタゲノム解析も行われるようになってきた。一方、無菌動物の開発は腸内フローラの機能研究に多大な貢献をした。さらに、遺伝子改変動物の出現は多くの病態モデルを提供し、それを無菌化することで病態と腸内フローラの関係がより

明らかとなってきた。

本講演では、腸内フローラの宿主免疫機能や感染抵抗性への関与、代謝やストレス対応への影響、IBDやガンなどの病態モデルでの病態発現への腸内フローラの役割などについて現在までの知見を紹介する。また、これらの中で腸内フローラの多様性の持つ意味やearly lifeでの腸内フローラとの接触の重要性についても述べる。

腸内フローラのアンバランスは多くの病気を誘発し、健康状態では腸内フローラ構成菌は多様性を示すが病的状態では多様性が減少する。宿主の健康維持のためにどのように腸内フローラを利用していくかはヒト、動物ともに重要な問題と考える。



NIBS

主催

一般財団法人 日本生物科学研究所

<http://nibs.lin.gr.jp/>